

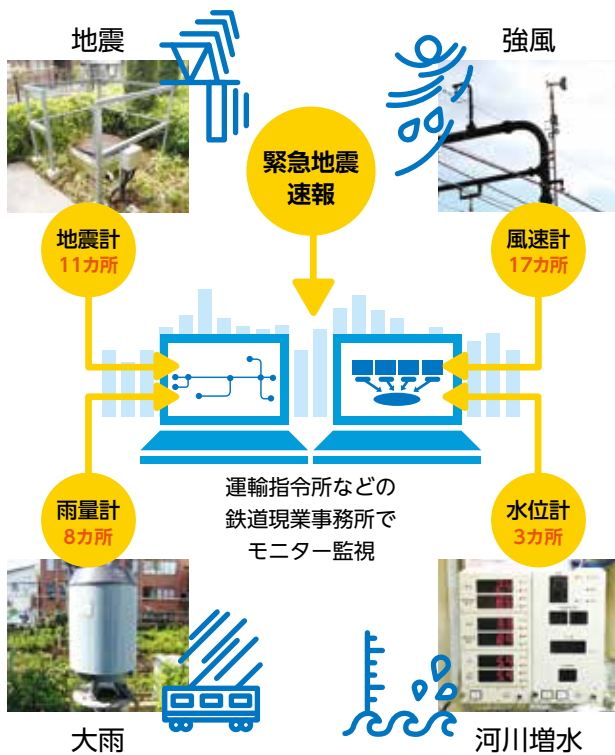
災害などへの備え

激甚化する自然災害に対して、監視体制を構築しているほか、耐震補強工事などの施設改良を推進しています。



気象情報システム

自然災害に迅速に対応するため、沿線に地震計・風速計・雨量計・水位計を設置しています。それぞれの計器で観測されたデータは運輸指令所をはじめとする各鉄道現業事務所において、24時間体制で監視しています。



▶ 強風

沿線17カ所に風速計を設置しています。観測された瞬間風速に応じた速度規制、運転中止の基準を定めています。また、井の頭線において、防風柵の設置工事を継続的に実施しています。



防風柵 (高井戸駅～富士見ヶ丘駅間)

▶ 地震

沿線11カ所に地震計を設置し、一定以上の震度を感知すると、全列車に警報を送り、列車を停止させます。さらに、気象庁の「緊急地震速報」を活用し、震度4以上の地震発生が想定される場合、自動的に全列車に警報を送り、乗務員が列車を安全な場所に停止させます。

また、新たな耐震基準に適合した構造物とするため、橋梁、盛土区間や高架橋柱、トンネルを対象とした耐震補強を実施しています。



▶ 大雨

沿線8カ所に雨量計を設置しているほか、多摩川など3カ所に水位計を設置しています。加えて、気象情報会社から提供される解析雨量のデータを活用しています。観測された時間雨量、累積雨量に応じて、速度規制、運転中止の基準を定めています。

また、高尾線では土砂崩壊対策として、線路脇斜面の改修工事を継続的に進めています。



法面改修 (北野駅～京王片倉駅間)

降灰対策

富士山をはじめとする火山の噴火に備え、線路上に積もった火山灰を除去するカートを、京王線・井の頭線あわせて3台導入しています。また、沿線の拠点に除灰用備品を配備しています。



除灰カート

落雷対策

き電線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線を必要な箇所へ設置完了したほか、電子機器の耐雷性強化を図っています。



避雷器



架空地線

降雪対策

▶パンタグラフの改良

従来のひし形のものより着雪面が少ないシングルアームパンタグラフを採用しています。また、車両基地などの架線には着雪・着氷を防止するため、ヒーターを内蔵した電線を使用しています。



▶融雪器の導入

地下駅を除く主要なポイント(分岐器)に電気融雪器を設置しています。

なお、2015年度からこれまでの電気融雪器に比べて融雪能力の高い温水循環式融雪器を導入しています。



帰宅困難者対策

大規模災害などにより、帰宅が困難になったお客様への対応として、全駅に備蓄品(飲料水、救急シートなど)を配備しています。

